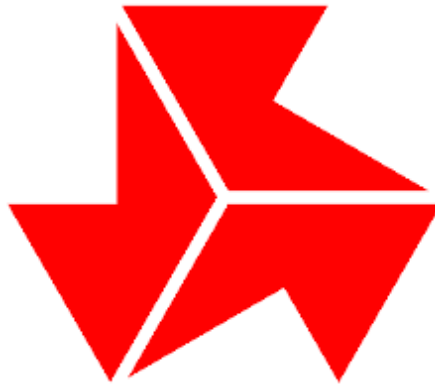


令和 8 年度

第 7 2 回北海道高等学校弓道選手権大会  
兼 第 7 1 回全国高等学校弓道選手権大会北海道予選会

## 実 施 要 項



当番校 市立札幌清田高等学校

## 第72回北海道高等学校弓道選手権大会

### 兼 第71回全国高等学校弓道選手権大会北海道予選会 実施要項

主 催 北海道高等学校体育連盟 北海道教育委員会 北海道弓道連盟

主 管 北海道高等学校体育連盟弓道専門部 北海道高等学校体育連盟札幌支部  
北海道弓道連盟中央地区 札幌弓道連盟

後 援 北海道体育協会 札幌市 札幌市教育委員会 札幌市体育協会

当 番 校 市立札幌清田高等学校  
(〒004-0863 札幌市清田区北野3条4丁目6-1 TEL 011-882-1811 Fax 011-882-2174)

- 1 期 日 令和8年6月16日(火)・17日(水)・18日(木)
- 16日(火) 8:10～ 8:45 集合・審判打合せ(道立総合体育センター 弓道場)  
8:10～ 受付(道立総合体育センター 弓道場)  
9:00～12:00 公式練習  
12:15～12:45 監督主将会議(道立総合体育センター 弓道場)  
13:00～13:30 開会式【優勝杯返還】(道立総合体育センター 弓道場 矢道)  
14:00～15:00 競技(個人戦 男子1立目、女子1立目)……………立射  
15:00～16:00 競技(個人戦 男子2立目、女子2立目)……………立射
- 17日(水) 8:10～ 集合・審判打合せ(道立総合体育センター 弓道場)  
8:30～ 受付(道立総合体育センター 弓道場)  
9:00～ 9:20 競技(男子個人戦 準決勝)……………坐射  
9:20～ 9:40 競技(女子個人戦 準決勝)……………坐射  
9:50～10:30 競技(男女個人戦 決勝)……………坐射  
10:40～11:10 個人競技表彰式(道立総合体育センター 弓道場)  
11:30～14:30 競技(団体戦 男子1立目、女子1立目)……………立射  
14:30～17:30 競技(団体戦 男子2立目、女子2立目)……………立射
- 18日(木) 8:10～ 集合・審判打合せ(道立総合体育センター 弓道場)  
9:00～10:30 競技(男女団体戦 2次予選)……………坐射  
10:40～11:00 競射(同中の場合)  
11:00～12:20 競技(男女団体戦 決勝トーナメント1回戦)……………坐射  
12:20～13:00 競技(男女団体戦 決勝トーナメント 準決勝)……………坐射  
13:10～13:30 競技(男女団体戦 決勝トーナメント 決勝)……………坐射  
13:40～14:00 団体競技表彰式・閉会式(道立総合体育センター 弓道場)

- 2 会 場 北海道立総合体育センター 弓道場  
(〒062-0905 札幌市豊平区豊平5条11丁目1-1 TEL 011-820-1703)

#### 3 競技種目

競技の種目、種別および規格は、以下のとおりとする。

- (1) 種 目 近的競技
- (2) 種 別 女子の部・男子の部
- (3) 種 類 団体競技・個人競技
- (4) 標 的 木柁の直径36cm霞的・直径24cm星的を使用する。
- (5) 競技場 団体戦2射場10人立(的間隔は1.8m)、個人戦4射場12人立(的間隔は1.8m)とする。  
射距離は28mとする。

#### 4 競技規則 (公財) 全国高等学校体育連盟弓道専門部「必携」(2026 発行) による

#### 5 参加資格

- (1) 選手は、学校教育法第 1 条に規定する高等学校（中等教育学校後期課程を含む）に在籍する生徒であること。但し、休学中、留学中の生徒を除く。
- (2) 選手は、北海道高等学校体育連盟に加盟している学校の生徒で、全道大会参加の資格を得たもの。
- (3) 当該競技連盟登録チーム・選手であり、かつ北海道高等学校体育連盟弓道専門部を通して(公財)全国高等学校体育連盟弓道専門部に登録している生徒であること。
- (4) 高体連主催大会参加者災害補償制度に加入した者、または加入の意思のある者。
- (5) 年齢は、平成 19 年（2007）年 4 月 2 日以降に生まれたものとする。ただし、出場は同一競技 3 回までとし、同一学年での出場は 1 回限りとする。
- (6) チーム編成において全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒の混成は認めない。
- (7) 以下の場合に限り、複数校合同チームの大会参加を認める。
  - ア 部員不足に伴う合同チーム  
(北海道高等学校体育連盟当該競技専門部長により支部大会から参加が認められた場合)  
詳細は、全国高等学校体育連盟が定める「部員不足に伴う複数校合同チーム参加規定」と専門部が定める「部員不足に伴う複数校合同チーム編成（北海道）の申し合わせ」による。
  - イ 統廃合対象校による合同チーム  
(統廃合完了前の 2 年間に限る)
- (8) 転校・転籍後 6 ヶ月未満の者は同一競技への参加を認めない。(外国人留学生もこれに準ずる) ただし、一家転住等やむを得ない場合は、支部長の許可があればこの限りではない。
- (9) 出場する選手はあらかじめ健康診断を受け、在学する学校の校長の承認を必要とする。
- (10) 参加資格の特例
  - ア 上記(1)(2)に定める生徒以外で、当該競技実施要項により大会参加資格を満たす生徒について、大会参加資格の別途に定める規定に従い参加を認める。
  - イ 上記(5)の但し書きについては、学年の区分を設けない課程に在籍する生徒の出場は、同一競技 3 回限りとする。

#### 〔大会参加資格の別途規程〕

- 1 学校教育法第 72 条、115 条、124 条及び 134 条の学校に在籍し、全道高等学校体育大会に参加を認められた生徒であること。
- 2 以下の条件を具備すること。
  - (1) 大会参加資格を認める条件
    - ア 北海道高等学校体育連盟の活動の目的を理解し、それを尊重すること。
    - イ 参加を希望する特別支援学校、高等専門学校、専修学校及び各種学校にあっては、学齢、修業年限ともに高等学校と一致していること。また、広域通信制連携校の生徒による混成は認めない。
    - ウ 各学校にあっては、支部大会から出場が認められ、全道大会への出場条件が満たされていること。
    - エ 各学校にあっては、部活動が教育活動の一環として、日常継続的に責任ある顧問教員の指導のもとに適切に行われており、活動時間等が高等学校に比べて著しく均衡を失っていない、運営が適切であること。
  - (2) 大会参加に際し守るべき条件
    - ア 全道高校体育大会参加生徒の指導基準および全道高校体育大会参加心得を遵守し、競技種目開催要項および申し合わせ事項等に従うとともに大会の円滑な運営に協力すること。
    - イ 大会参加に際しては、万全の事故対策を講じておくこと。
    - ウ 大会参加料は、エントリー選手 1 名 2,500 円とする。

#### 6 引率・監督

- (1) 引率責任者は当該校の教員で、監督は学校長の認めた教職員とする。ただし、監督については種目の特殊性を考慮し、申出により別途協議する。なお、引率責任者と監督が同一者の場合は教員とする。  
校長から引率を委嘱された「部活動指導員」(学校教育法施行規則第 78 条の二に示された者) も可とする。
- (2) 監督、引率教員、介添生徒、上記部活動指導員について、ID (身分証明書) を発行する。この ID の提示がなければ、本会場及び控室に立ち入ることはできないものとする。

なお、選手はゼッケンの着用によってIDの代わりとする。

## 7 チーム編成等

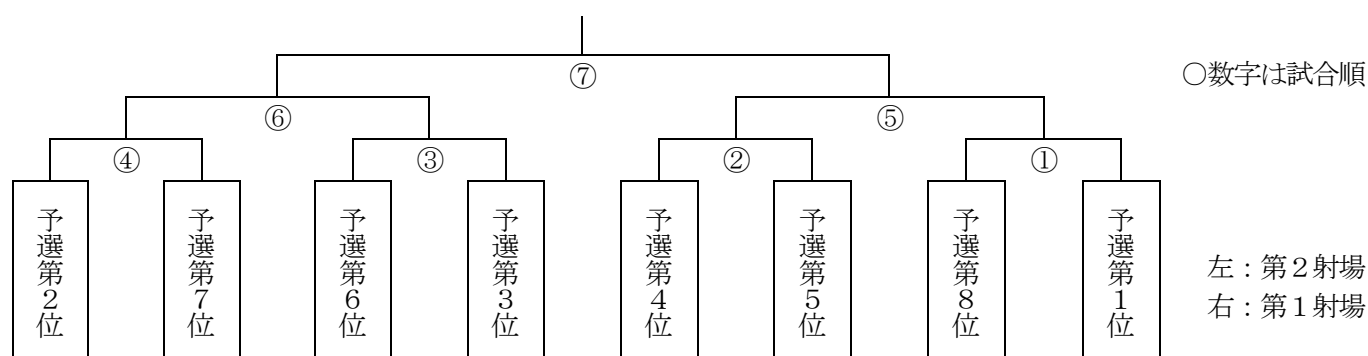
- (1) 団体の部は、選手5名・補欠2名以内・監督1名・介添生徒1名以内とする。  
(但し、本大会は選手3名以上をもって団体として認める。)
- (2) 個人の部は、選手1名・監督1名・介添生徒1名以内とする。
- (3) 課程（全日制・定時制・通信制）ごとの生徒によるチームであること。
- (4) 団体の部の各支部参加可能数については別紙【参加基準①】のとおりとする。  
なお今年度、前年度優勝校枠は、男子－札幌支部、女子－北見支部に  
当番学校支部枠は、札幌支部に男女1チームずつ与える。
- (5) 個人の部の各支部参加可能数については別紙【参加基準②】のとおりとする。

## 8 競技方法

- (1) 団体競技および個人競技は、今年度、男子→女子の順番で行う。

### ア 団体競技

- (ア) 1次予選は参加申込書の登録順に5名が出場し、各自8射、計40射を行う。的中数上位より12チームを通過とする。下位同中の場合は、同中校をすべて通過とする。
- (イ) 2次予選は予選立順の早いチームから、各自4射、計20射を行い、1次予選の的中数と合わせ、合計60射の総的中数上位8チームが決勝に進出する。予選通過決定競射の場合は、各自1射の競射を行う。
- (ウ) 決勝は、予選順位によって（1位－8位、2位－7位、3位－6位、4位－5位）と、組み合わせトーナメント方式により、一人4射、計20射を行う。同中の場合は一人1射ずつの競射を行い、勝敗を決定する。対戦組み合わせは、予選順位により下記トーナメント表に従う。8位までに同中があった場合は抽選により順位を決する。



### イ 個人競技

- (ア) 予選は各自8射を行い、5中以上の的中をもって通過とする。
  - (イ) 準決勝は予選通過者により、各自4射を行い、3中以上の的中をもって通過とする。決勝進出者が6名に満たないときには、2中者または1中者で遠近競射を行い、それ以下の順位を決定する。
  - (ウ) 決勝の射詰競射は、12人以下となった時点で持的とする。
  - (エ) 決勝戦は、射詰競射により上位から順位を決定する。9射目より24cm星的を使用する。的替えのため、8射終了後選手を一旦退場させ、立順を詰めて持的で競技を継続していく。的中を失った場合は、最上位者及び全国大会出場者を決定する場合に限り射詰競射とし、その他は遠近競射による。
- (2) 競技時間の制限
    - ア 競技時間は、本座において進行係の合図により始まり、最後の射手の最後の離れで終わる。
    - イ 競技は個人戦の予選および団体戦の1次予選は立射とする。また、個人戦の準決勝以降および団体戦の2次予選以降は坐射とする。1団体20射の行射制限時間を立射は7分以内、坐射は8分以内とし、立射は6分30秒、坐射は7分30秒で予鈴の合図をする。
    - ウ 弦切れ、その他の事故が生じて時間延長は認めない。ただし、審判委員の指示により競技が停止した時間は制限時間から除外する。追い越し発射は認めない。
    - エ 個人競技および順位決定戦等の時間制限のない場合は、「弦音打起し」の競技の間合いを原則とする。

(2) 招集

- ア 第4控において、選手、監督、ゼッケン、服装、弓具の確認・点検を行う。
- イ 第3控から第2控へ移動する際に選手がいない場合、不在選手の持ち矢を失権とする。
- ウ 第3控から第2控へ移動する際に監督がいない場合、団体選手全員の持ち矢を失権とする。

(4) 選手の交代

- ア 登録選手以外は認めない。
- イ 団体競技の先発メンバーは登録順の5名とし、選手の交代は3回まで認める。ただし、決勝トーナメント進出校決定のための同中競射においては交代を認めない。
- ウ 交代した選手の再出場はできる。
- エ 届け出は、監督が原則招集の30分前までに所定の用紙で提出すること。
- オ 立順を変更することは認めない。ただし、交代により、結果的に立順が変わることはやむを得ないものとする。
- カ 選手の交代によりゼッケンを替えてはならない。
- キ 個人競技の選手の変更は認めない

(5) その他

- ア 坐射ができない選手は、所定の用紙で事前に届け出て許可を得ること。
- イ 各自替矢を持参すること。
- ウ 矢返しは四つ矢が終わるごとに行い、1本ごとの矢返しは認めない。
- エ 替矢を持たずに同中競射および射詰競射に入った場合、5本目に替矢がない場合は失権とする。

9 参加料

- (1) 大会参加料は、エントリー選手一人2,500円とする。(同一選手が団体戦と個人戦の両方にエントリーしている場合は一方の分だけで良い。)
- (2) 納入方法  
下記の口座に振込とする。(振込依頼人名に学校名を入れてくださるようお願い申し上げます。その際、道立高校の場合は「ホッカイドウ」を省いてください。 例：サッポロキョタコウコウ)

参加料振込先 北洋 銀行 清田区役所前 支店 (店番号 497)  
普通預金 口座番号 3358917  
口座名 市立札幌清田高等学校 代表 校長 信田 篤

10 参加申込・参加料の払い込み

- (1) 申込方法 (プログラム作成の都合上、必ず以下のようにしてください)

**※締切厳守でお願いします。また、申込後の登録選手の変更は理由の如何に問わず受け付けられません。**

- ア ① 参加選手および参加料の明細を、参加申込書(エクセルファイル)に入力し、メール送信での申し込みをお願いします。送信の件名は下記を参照のこと。

**「参加申込書(〇〇高校)」**

- ② また、職印を押した参加申込書の原本デジタルデータ(PDFまたは写真データ)もメールにて送信してください。
- ③ 職印を押した申込書は当日ご持参ください。ただし、メールの内容と記載内容が同じものであること(メールデータを優先します)。

イ 坐射ができない場合

- ① 坐射ができない場合は、参加申込書の備考欄にその旨を記入するとともに、「立射の申請書」(エクセルファイル)を印刷し押印したものを参加申込書同様PDFまたは画像ファイル化し、メールにて提出すること。当日持参の必要はありません。
- ② 必ず事前に書類を提出すること。監督主将会議当日の口頭による申し込みは受け付けない。ただし、申込締切後に怪我等が発生した場合については監督会議前に書面で連絡すること。

## ウ 合同チームの申し込みについて

合同チーム用参加申込書（エクセルファイル）に記載の手順で申込書を作成・送付してください。

### ※個人情報の取り扱いに関して

大会参加に関して提供される個人情報は、本大会活動に利用するものとし、これ以外の目的に利用することはありません。（詳しくは実施要領の「個人情報保護および肖像権に関わる取り扱いについて」を参照してください。）

## (2) 申込先・参加料振込先

【申込み】メール送信をお願いいたします。

メールアドレス [00215877@sapporo-c.ed.jp](mailto:00215877@sapporo-c.ed.jp)（担当 橋堀 悠杜[はしぼり ゆうと]）

申込書ファイルのダウンロードは「市立札幌清田高等学校ホームページ」より行ってください。

URL [ホーム - 市立札幌清田高等学校](#)

## (3) 申込期日

- ① メール送信（参加申込書・職印押した原本データ・立射申請書）令和8年5月27日（水）期日厳守
- ② 参加料の振り込み 令和8年5月29日（金）期日厳守
- ③ 職印押した申込書は当日ご持参ください。

## 1 1 宿泊・弁当について

宿泊及びお弁当の斡旋はいたしません。各校で手配をお願いいたします。

## 1 2 表彰

### (1) 表彰

ア 団体の部は、男女とも3位まで。（3位は2校）

イ 個人の部は、男女とも6位まで。

ウ 射道優秀賞（決勝トーナメント進出校を対象とする）

エ 皆中賞（団体の部・個人の部出場者中、第1次予選より連続8射皆中した者。ただし、両者を兼ねる場合は個人の部の成績を対象とする）

### (2) 全国大会出場権

団体の部は、男女優勝校とする（選手は5～6名）。ただし優勝校の棄権が明確の場合や合同チームの場合は、準優勝校を補欠校とする。

個人の部は、男女2位までの者とする。ただしその中で棄権が明確になった場合、3位の者とする。

## 1 3 競技上の諸注意

### (1) 弓具

ア 選手は全国高等学校体育連盟弓道競技規則第13条に定められた弓具を使用すること。

イ 押手掛け（指押手を含む）以外の補助具は原則として認めない。

ウ 檣の紐は危険防止のため小さく結び、止め具の使用は禁止する。

エ 弓具に照準・目印をつけてはならない。

オ 伝統的な押手補助具や傷部保護のための包帯、テーピングを除き、押手にはその他のものをつけてはならない。

\*伝統的な押手補助具としては、押手檣（拇指、人差指の2本指と拇指のみの1本指）がある。

\*キネシオテープについては、テーピングとみなし使用を認める。

\*サポーターの使用は手首以外の使用について認める。色は、白・黒・紺・ベージュの単色無地とする。

\*傷病や障害等のため、包帯やテーピングで手首を固定する必要がある場合は、監督が事前に大会本部へ申し出て使用させること。

## (2) 服装

### ●選手

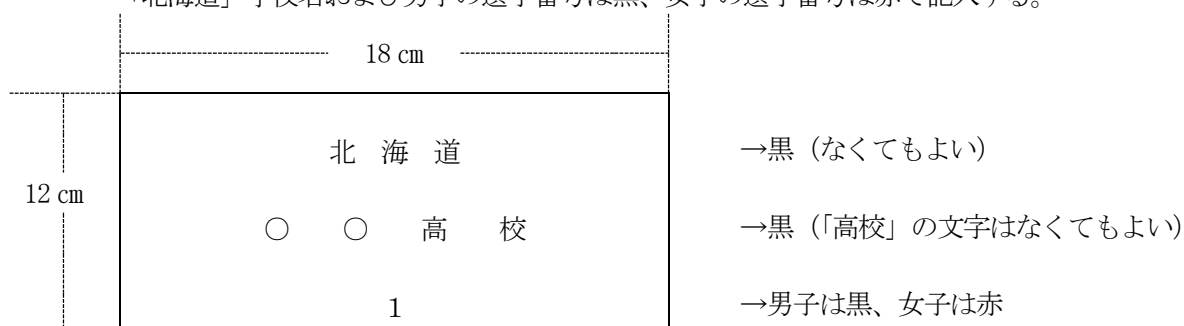
- ア 弓道衣・袴・足袋は単色無地とする。ただし、各学校で統一すること。
- イ 弓道衣のアンダーシャツは白・黒・紺の無地とし、それ以外の色を使用する場合は各学校で統一する（個人競技の場合も同一校は競技種別で揃える）こと。襟付き・ハイネックは不可とする。
- ウ 弓道衣に校名・校章・氏名および北海道のシンボルマークやワッペン等を付ける場合は、片袖に限る。ただし、大きさは、縦横10cm以内にする。袴へ刺繍等により校名・氏名を入れる場合は右腰後にする。
- エ 鉢巻を使用する場合は、無地で長さは肩までとする。なお、校名・校章・氏名・番号に限り入れても良いが場所は鉢巻の端とする。
- オ 胸当ては無地とし、校名・校章・その他を入れてはならない。男子の胸当ての使用は認めないが、弓道衣の下に装着する事は咎めない。
- カ リボン・ピアス等の装身具類は着用しないこと。
- キ 弓道衣・袴・足袋・アンダーシャツ・鉢巻等の色についてチーム内で統一を要する場合は、専門部登録が男女別であることから、同一校であっても男子チームおよび女子チームで異なることを認める。ただし、個人競技においても、男子個人・女子個人の別など競技種別ごとに、同一校内における色の統一を図るものとする。

### ●監督

- ア 射場内での服装は上着（ジャケット）の着用を原則とする。ただし、気候に応じて半袖ポロシャツ等でも可とする。
- イ 射場内での素足は厳禁とする。

## (3) ゼッケン

- ア プログラムに登録された番号を表示したゼッケンを右腰前に付ける。ただし、ゼッケンの左端が体の中央になるようにする。
- イ ゼッケンは横18cm、縦12cmの白の布または紙を使用する。（ゼッケンをケースに入れることは可）  
「北海道」学校名および男子の選手番号は黒、女子の選手番号は赤で記入する。



- (4) 控室の壁・柱などを使用した弓張りは禁止とする。
- (5) 観覧席からのフラッシュ撮影は禁止する。
- (6) 応援は、的中時の「よし」の掛け声と皆中時の拍手のみとする。
- (7) 常に静粛な環境を維持するように相互に協力してください。

**※その他、必要事項は、「必携」（全国高等学校体育連盟弓道専門部、2026年発行）の15、16ページを参照すること。また大会時には「必携」を持参すること。**

## 1.4 公式練習の時間について

- 北海道立総合体育センター弓道場（12人立 的間隔1.8m）  
16日（火） 9：00～12：00（公式練習は一人一立ちとする 公式練習整理券等発行予定）  
※16日（火）の公式練習は、弓道場入口にホワイトボードを設置し、氏名付きのマグネットを貼り付け実施する。公式練習は各選手1回のみとする
- 巻藁練習について  
大会期間中、剣道場に4台設置



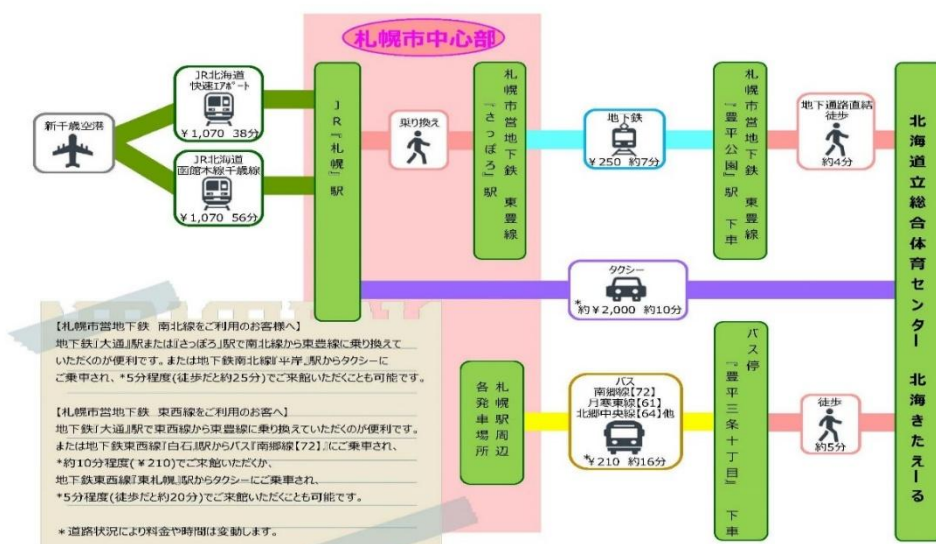
- 17日（水）の午前中は個人戦出場選手優先で使えるよう、各校ご配慮お願いいたします。
- \*選手は試合用の服装（必ずゼッケンを装着）で練習をすること。お互いに節度を守ること。
  - \*練習の際は、必ず監督などの責任のある方が射場内につき、危険防止に留意すること。
  - \*上記の時間以外に練習はできません。また、控室以外でのゴム弓等の練習は市民への迷惑になりますのでお控えください。

15 大会会場アクセスについて（以下北海道立総合体育センターURL から参照ください）  
[アクセス | 北海道立総合体育センター 北海きたえーる](#)

16 控室について

- ・15日（月）～18日（木）：柔道室、剣道室、講堂・視聴覚室、大研修室

17 会場周辺地図（駐車場）ならびに 会場図





## 大 会 日 程

6月16日（火） 大会第1日目

審判打ち合わせ 8:30～ 9:00  
 会 場 北海道立総合体育センター[中研修室]  
 出席者 専門委員長、審判長、副審判長、専門委員、審判員、当番学校担当職員

監督主将会議 12:15～12:45  
 会 場 北海道立総合体育センター弓道場[射場内]  
 出席者 専門部長、専門委員長、審判長、副審判長、専門委員、  
 当番学校長および担当職員、次回大会当番学校職員、各校監督・主将

開 会 式 北海道立総合体育センター弓道場[矢道] 13:00～13:30  
 個人男子予選1立ち目（立射） 14:00～14:30  
 個人女子予選1立ち目（立射） 14:30～15:00  
 個人男子予選2立ち目（立射） 15:00～15:30  
 個人女子予選2立ち目（立射） 15:30～16:00

6月17日（水） 大会第2日目

集 合（審判打ち合わせ：北海道立総合体育センター弓道場[射場内] 8:10  
 男子個人準決勝（坐射） 9:00～ 9:20  
 女子個人準決勝（坐射） 9:20～ 9:40  
 男女個人決勝戦 9:50～10:30  
     ①男子個人射詰め競射（2位まで）  
     ②女子個人射詰め競射（2位まで）  
     ③男子順位決定戦遠近競射  
     ④女子順位決定戦遠近競射  
 個人表彰式 10:40～11:10  
 団体男子1次予選1立ち目（立射 制限時間7分） 11:30～13:00  
 団体女子1次予選1立ち目（立射 制限時間7分） 13:00～14:30  
 団体男子1次予選2立ち目（立射 制限時間7分） 14:30～16:00  
 団体女子1次予選2立ち目（立射 制限時間7分） 16:00～17:30

6月18日（木） 大会第3日目

集 合（審判打ち合わせ：北海道立総合体育センター弓道場[射場内] 8:10  
 団体男子2次予選（坐射 制限時間8分） 9:00～ 9:45  
 団体女子2次予選（坐射 制限時間8分） 9:45～10:30  
 2次予選通過決定競射（坐射 予選同順の場合） 10:40～11:00  
 団体男女決勝トーナメント（坐射 制限時間8分） 11:00～13:30  
     ①トーナメント1回戦 12:15～13:30  
     ②トーナメント準決勝  
     ③トーナメント決勝  
 団体競技表彰式・閉会式 13:40～14:00

## 会 議 案 内

専門委員会	会 場	北海道立総合体育センター[中研修室]
	期 日	6月16日(火)
	時 間	8:30～9:00
	出席者	専門部長、専門委員長、専門委員、当番学校長および担当職員 次回大会当番学校職員(北海道釧路工業高等学校)
審判打ち合わせ	会 場	北海道立総合体育センター弓道場[射場内]
	期 日	6月16日(火)
	時 間	8:30～9:00
	出席者	専門委員長、審判長、副審判長、専門委員、審判員、当番学校担当職員
監督・主将会議	会 場	北海道立総合体育センター弓道場[射場内]
	期 日	6月16日(火)
	時 間	12:15～12:45
	出席者	専門部長、専門委員長 審判長、副審判長、専門委員、当番学校長および担当職員 次回大会当番学校職員、各校監督・主将

### 専門委員会 次第

1. 開会の辞
2. 専門部長挨拶
3. 議事
  - 1) 日程の確認
  - 2) 大会プログラムの訂正について
  - 3) 競技上の注意について
  - 4) 大会役員・審判について
  - 5) 当番校連絡事項
  - 6) 次回大会支部専門委員報告
  - 7) その他
4. 閉会の辞

### 監督主将会議 次第

1. 開会の辞
2. 専門部長挨拶
3. 当番学校長挨拶
4. 審判長・副審判長紹介
5. 審判長挨拶
6. 競技日程確認および競技上の注意
7. 選手交代について
8. プログラムの訂正について
9. 当番校からの連絡
10. その他
11. 閉会の辞

## 競技上の諸注意

- 1 矢つがえ後の筈こぼれした矢は、無効となる。矢つがえ後とは矢をつがえてから妻手を右腰に据えた時とする。個人戦に限り、前立の射手の本弭等によってはじかれた場合は筈こぼれとみなさない。
- 2 弦切れの場合、4本目を除き、選手は射位に跪坐し、射場進行係が弓を取りに来るのを待つ。弓を渡した後、切れ弦の処理をする。4本目の場合はならいのごとく処理し退場する。原則、替弦は監督が張るものとする。
- 3 弓を取り落とした場合、射場進行係の指示に従い処理をする。
- 4 射位にある射手は口頭、またはその他の方法で助言を求め、または受け取ってはならない。射手が本座及び射位で不必要な声を発する、または他の射手に対して助言をするなどしてはならない。
- 5 会場内で不必要な声を発しないこと。観覧者は指定された観覧席から応援し、的中時の「よし」と皆中時の拍手のみとする。
- 6 矢を落し失権となった矢は、他の選手の妨げとならないように拾って自分の右側に送る。
- 7 的中数は看的の○×？表示で示す。的中数に異議がある場合は、矢を抜く前に監督が射場進行係に申し出る。その後の申し出については受け付けない。
- 8 競技進行中における行射中止の指示は、的前における赤旗の掲示と射場内における進行係の指示によって行うので、直ちに行射を中止すること。再開指示は赤旗を撤去、係が指示する。
- 9 同中競射および射詰の時、競射1本目は替矢とする。この時は一矢射終わったら自分の席に戻る。2本目以降の競射・射詰の矢は、監督に預け一矢ずつ受け取る。競射は一矢射終わるごとに自分の席に戻る。
- 10 個人競技決勝の射詰・遠近法による競射の退場は進行係の指示に従うこと。
- 11 第3控で弓具、服装（ゼッケンを含む）、選手・監督の確認を行うので、競技進行に合わせて集合する。第2控に移動するまでに集合しない場合は、その立ちに限り失権とする。
- 12 第2・3控では弓具を置いて待機する。不必要な発声や呼吸音・立ち歩くなど、他校の選手、チームの迷惑・妨害となる行為はしないこと。また、的に向かっての素引きはしない。
- 13 監督は、監督章をつけて替矢・替弦を持参して入場する。
- 14 計時について、立射は6分30秒、坐射は7分30秒の振鈴で予告し、立射は7分00秒、坐射は8分00秒の振鈴によってその後の矢を失格とする。振鈴は本部席のストップウォッチを基に行う。
- 15 矢返しは、試合会場入り口付近に設置した矢立てで行うので、速やかに回収すること。
- 16 矢摺り籐の長さが6cm未満のもの、あるいは損傷し、セロテープなどで補修している等の弓は使用しない。（弓具点検の際に、競技上危険または目印とみなしうる場合は、ガムテープを貼ることがあります。）
- 17 本座から射位までの距離は、座射の場合は2m、立射の場合は1.1mになります。（選手の座る位置は変わらない）立射の場合は、進行係の「起立」の合図で本座まで進み、「始め」の合図で揖を行い、射位へ進むこと。
- 18 的は合わせ的を使用し、的紙は裏にビニールの入った的紙を使用しますので、ご了承ください。

# 会 場 使 用 上 の お 願 い

1. 北海道立総合体育センターの開館時間は8：05です。選手はそれ以前には入館できませんので注意して下さい。なお、札幌支部の顧問の先生方は8：10から競技役員打合せを行いますのでそれまでに弓道場内にお集まり下さい。(駐車場の開門は8：00です。駐車券のない車は利用できません。できるだけ公共の交通機関をご利用下さい。)
2. 選手の控室は分散されており、曜日によっては移動もあります。また、収容人数も厳しいものになっていますので、お互いに譲り合ってください。  
【控え室】 当日までにご連絡いたします。  
【控え室】 当日までにご連絡いたします。  
控室の利用について、次のことを必ず守ってください。  
(ア) 16日(火) 17日(水) 18日(木)の控室となっている柔道室は土足厳禁です。また、飲食は厳禁です。  
(イ) 控室内では、壁面を使って弓を張ることを禁止します。選手同志で肩を貸しあうなどして弓を張って下さい。その他の施設・備品の破損にも十分注意して下さい。  
(ウ) 昼食は2階講堂・視聴覚室をご利用ください。  
(エ) 剣道場に巻き藁を4台設置してあります。安全に留意してお使いください。なお、巻き藁は会場に持ち込めません。  
(オ) 退館時には必ず自分たちの周囲の清掃を行ってください。ただし、ゴミ袋の用意はしませんので、各学校のゴミの処理は各自の責任で行い、ゴミは必ず持ち帰って下さい。  
(カ) センター内にあるゴミ箱や最寄りの地下鉄駅構内のゴミ箱にゴミを捨てて帰らないで下さい。  
(キ) 絨毯を汚さぬように十分注意して下さい。  
(ク) 靴の取り違えが多く発生していますので、靴袋を用意して控え室に持ち込んで下さい。  
(ケ) 部旗を貼り付ける場所がありませんので、ご了解下さい。  
(コ) 参加校の監督、介添生徒および各校学校長が認めた(参加申込書に記名された)外部指導者には、受付にてIDカードを配布します。大会会場、選手控室へはこのIDを持っている者に限ります。選手はゼッケンをもってIDの代わりとします。
3. 盗難防止のため、貴重品の管理は各自で厳重にお願いします。なお、弓道場控室および柔道室付属の「選手控室」内に鍵付きロッカーがありますので、必要な方はそちらを利用して下さい。
4. センター内の他の施設にみだりに立ち入らぬようお願いします。(メインアリーナ・サブアリーナ等)  
また、センター内の施設・備品の破損、周囲の迷惑となる行為、危険な行為は厳に慎んで下さい。
5. 男女共更衣室は、柔道室に付属のものを使用して下さい。更衣室は1日中使用できます。ただしセンター内の他施設の更衣室は使用できません。更衣室以外での着替えは慎んで下さい。
6. 応援のマナーに注意し、観客席からの声援・指示などで射手に動揺を与えるような行為は慎んで下さい。
7. 第1射場側の観覧席では、1立ごとの完全入れ替え制とします。  
射場側を入口、的側を出口とし、入れ替えをお願いしていますので、ご協力ください。一定時間経過後出口側からの再入場は可能です。
8. 外からの写真撮影に関して、前方観覧席からのフラッシュを使用しての写真撮影は禁止です。選手を通じて保護者などにもお伝え下さい。
9. OB・父母等は弓道場内には入れません。選手も行射終了後はすみやかに道場内から立ち去って下さい。ただし、監督又は監督代行は的中数を確認してから退出して下さい。
10. 弓道場は本館から離れた屋外にあります。雨天の場合、弓道場から本館に戻ったとき、玄関前で雨具の水気をよくきり、下足の汚れをマット等で十分に拭いて下さい。
11. 選手および観覧生徒は第一駐車場や弓道場とセンター本館の通路で区切られている場所に立ち入らないようにして下さい。
12. 個人戦は3人立ち4射場で行います。団体戦は5人立ち2射場で行います。

# 「第72回全道高等学校体育大会弓道競技大会」参加における 個人情報保護および肖像権に関わる取り扱いについて

北海道高等学校体育連盟  
第72回北海道高等学校弓道選手権大会当番校  
市立札幌清田高等学校

令和8年度第72回北海道高等学校弓道選手権大会当番校は、大会参加申込書等を通じて取得される個人情報および肖像権の取り扱いについて以下の通り対応します。

## 1 参加申込書に記載された個人情報の取扱い

- (1) 大会プログラムに掲載されます。
- (2) 競技会場でアナウンス等により紹介されることがあります。
- (3) 競技会場内外の掲示板・速報・新聞等に掲載されることがあります。

## 2 競技結果（記録）等の取扱い

- (1) 認められた報道機関等により、新聞・雑誌および関連ホームページ等で公開されることがあります。
- (2) 大会プログラム掲載の個人情報とともに、当番校が作成する大会報告書(以下「報告書」という。)に掲載されます。
- (3) 新記録、優勝および上位入賞結果（記録）等は、次年度以降の大会プログラムに掲載されることがあります。

## 3 肖像権に関する取扱い

- (1) 認められた報道機関等が撮影した写真が、新聞・雑誌・報告書および関連ホームページ等で公開されることがあります。
- (2) 認められた報道機関等が撮影した映像が中継または録画放送されることがあります。また、DVD等に編集され、配布されることがあります。
- (3) この他、北海道高等学校体育連盟の許可に基づき、記念写真等が販売されることがあります。

## 4 当番校としての対応について

- (1) 取得した個人情報を上記利用目的以外に使用することはありません。
- (2) 参加申込書の提出により、上記取り扱いに関するご承諾をいただいたものとして、対応させていただきます。
- (3) 個人情報等の掲載または公開等に関してのご質問は、北海道高等学校体育連盟事務局または当番校事務局までご連絡ください。

### 連絡先・問い合わせ先

北海道高等学校体育連盟事務局  
011-826-3306  
第72回北海道高等学校弓道選手権大会当番校事務局  
011-882-1811（市立札幌清田高等学校）

# 弓道大会 応援・観戦のマナーについて

最近、大会時における応援・観戦について、さまざまな問題が指摘されています。出場選手が日頃の修練の成果をいかんなく発揮できるよう、以下の応援・観戦のマナーを厳守願います。

---

## ①射場外からの応援は、的中時の「よし」の発声及び皆中時の拍手に限られています。

自校のチーム・選手に対する熱心な応援が時として他校のチーム・選手の行射の妨げ・迷惑になる場合があります。最近、奇声とも思えるような応援、長い拍手もあります。周囲に配慮した爽やかな応援を心掛けてください。

## ②常に、他校のチーム選手に敬意を払った応援をお願いします。

相手チームや選手が外れた時に「よし」と発声したり、相手の失敗を期待したりするような発声は絶対にやめてください。保護者の方にも周知をお願いします。

## ③射場外からのフラッシュ撮影は禁止されています。

フラッシュの発光は時に競技の妨げになります。ご存じない様子の観客がおいででしたら、一言声をおかけください。

---

応援・観戦の態度が悪く、再三の注意にもかかわらず、改善の様子が見られない場合、行射を止めざるを得ないこともあります。

勝敗にかかわらず、選手が気持ちよく大会を終えられるよう、各位の特段のご協力をお願い致します。

北海道高体連弓道専門部